

2019年度 S G H 連絡協議会

1－③分科会



2752 明治学園中学校・高等学校





「人々のための人に」

本日の発表内容について

- 1 得られた成果は何か
- 2 成果につながった開発カリキュラムの特徴
- 3 成果を今後どのように活かしていくのか
- 4 課題研究の取組事例 : 「自然災害と防災・減災」班

1 得られた成果は何か

- ▶ 「明確になった目指す生徒像」 と 「明らかになったカリキュラムの有効性（報告書参照：HPに掲載）」



目指す生徒像 = **自律した学習者**

1 得られた成果は何か

- ▶ 「明確になった目指す生徒像」 と 「明らかになったカリキュラムの有効性（報告書参照：HPに掲載）」



目指す生徒像 = **自律した学習者**

自律した学習者とは

広い視野を持って、言語運用能力や論理的思考力、
考えや価値観の異なる他者と協働する力を発揮して、
自主的自発的に課題を発見し、解決する意思と力を
備えた人物

2 成果につながった開発カリキュラムの特徴

構想名：「社会の変革に寄与するグローバルリーダーの育成カリキュラム」

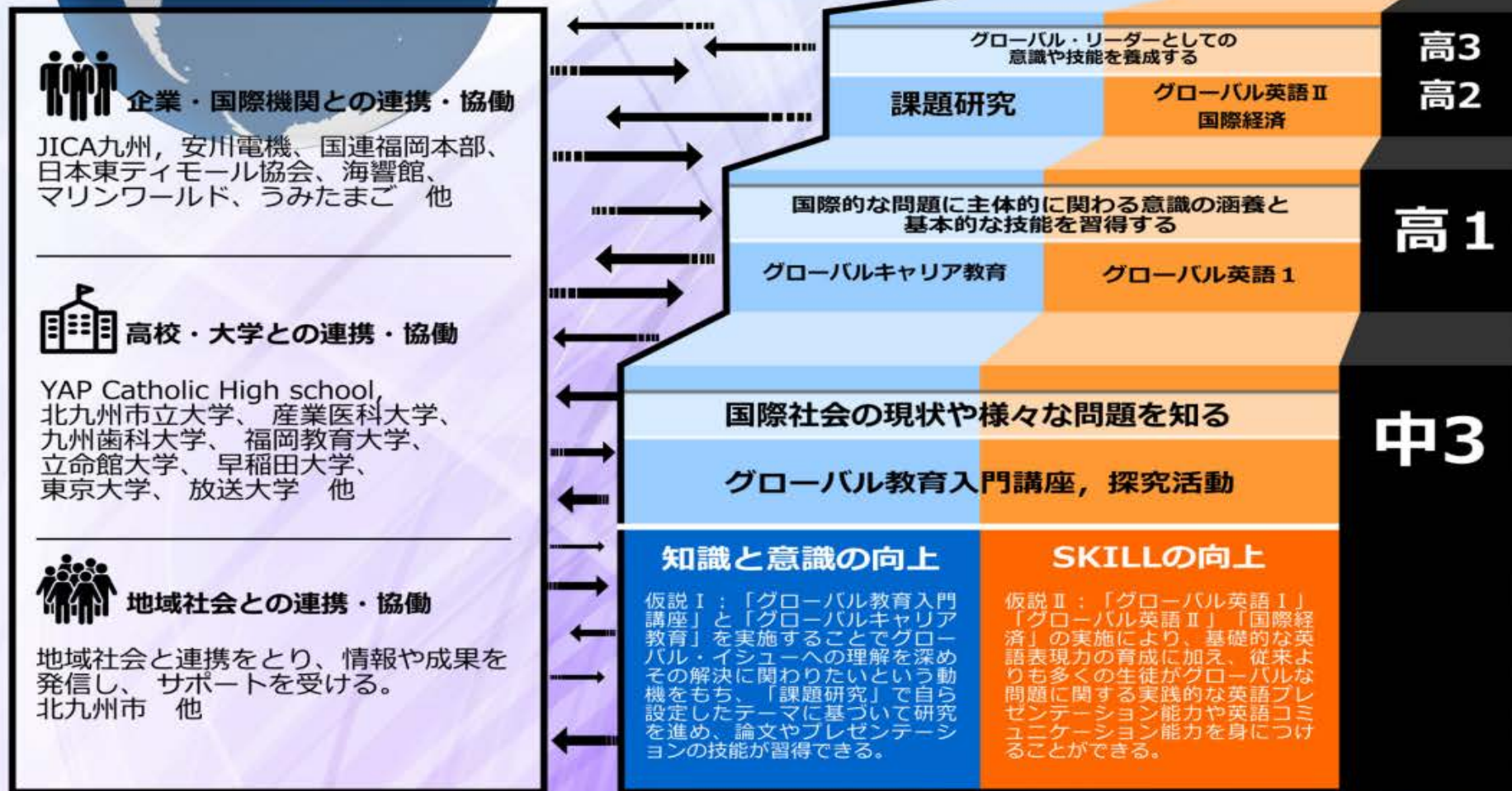
「自律した学習者」を育てるカリキュラム

- | | |
|----------------|--|
| 「広い視野」 | => グローバル入門講座、グローバルキャリア教育、グローバル英語 I・II、国際経済 + 各教科 |
| 「言語運用能力」 | => グローバル英語 I・II + 各教科 |
| 「論理的思考力」 | => 課題研究、理科探究 + 各教科 |
| 「他者と協働する力」 | => 課題研究 + 各教科 |
| 「課題を発見し、解決する力」 | => 課題研究 + 各教科 |

明治学園中学校・高等学校 スーパーグローバルハイスクール事業の概要
 構想名：社会の変革に寄与するグローバル・リーダーの育成カリキュラム



グローバル・リーダーとなる生徒の育成



各教科の授業改善につながる手応え

- 論理的思考と論理的表現：**三角ロジック**（Stephen Edelston Toulmin）
 - アカデミックライティング
 - ・ **知の理論**（I B）との出会い …… TOKワークショップの開催（岡山大学と共催）（2019.2.9）
- 課題研究の成果：「**探究のプロセスは知識の構造化を促す**」という手応え
- 問いを立てる力の重要性 → **課題設定力 = 問いを立てる力**
- **ルーブリック評価**の活用 …… 課題研究、各教科、HRでの生徒の振り返り
- 生徒の手による様々な発表会や**シンポジウムの開催**
- コア・カリキュラムとしての**カトリック・スピリット（CS）**
- **アカデミックメソッド**の実施
- 様々な外部（大学・研究機関・企業・NPO・自治体・小中高）との**連携の確立**

3 成果を今後どのように活かしていくか

=> POST S G H

基本的には、

開発したカリキュラムを改善しながら発展的に継続実施する。

特に、課題研究の充実のために次のことを行う。

① **アカデミックメソッド**の内容充実（各学年 年間15時間）

（中学1年生：ソーシャルスキル、中学2年生：プレゼンテーションスキル、
中学3年生：アカデミックスキル）

② グローバルキャリア教育の一部を改善し、修学旅行等も活用して
「プレ課題研究」とする。

4 課題研究取組事例 「自然災害と防災・減災」班

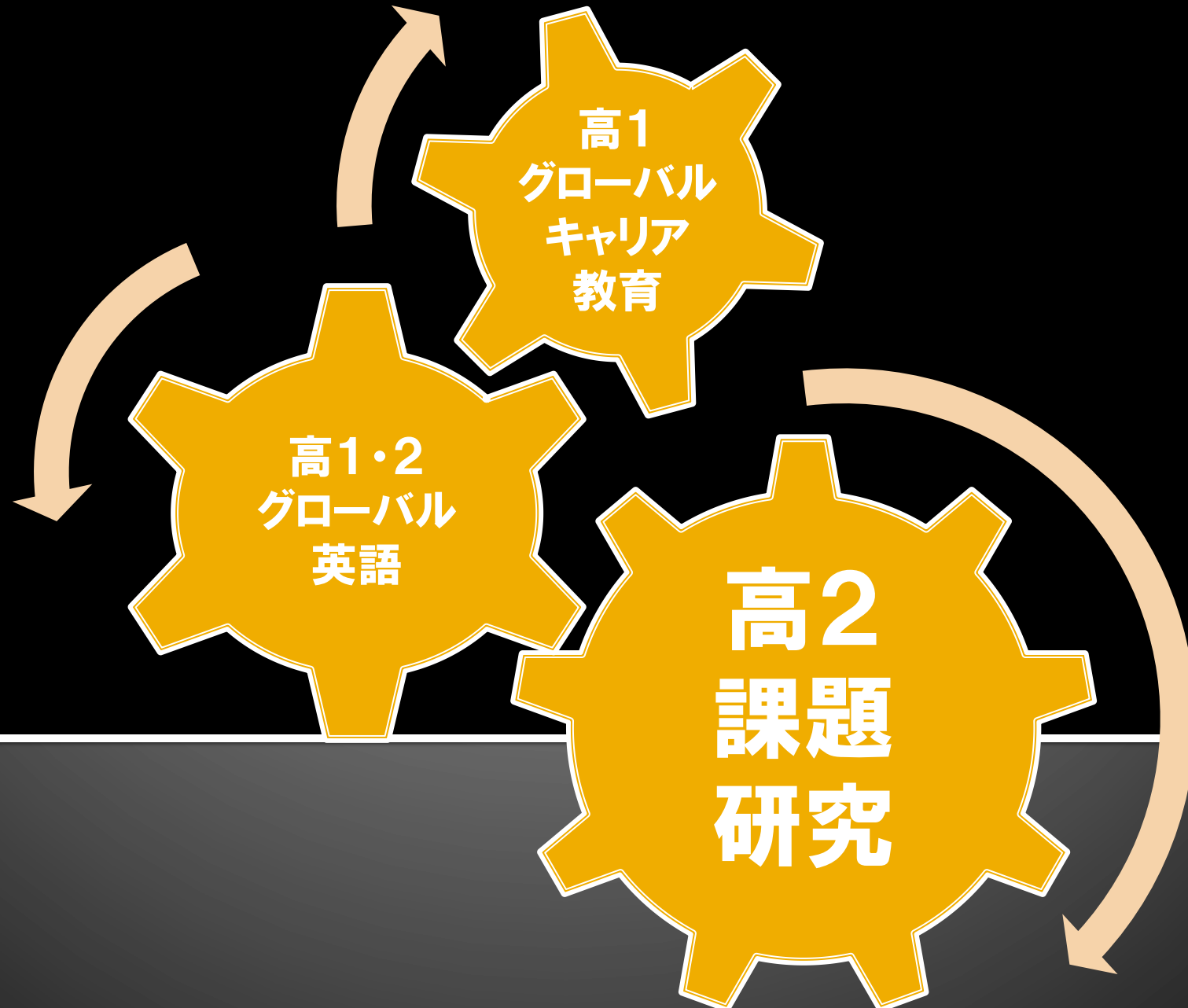
地域との協働の取り組み例

課題研究

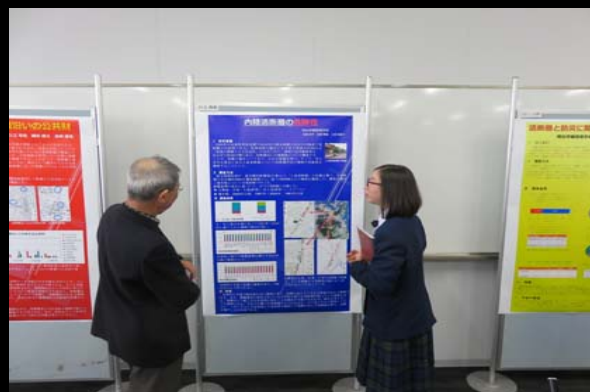
「自然災害と防災・減災」班

指定3年目からの取り組み

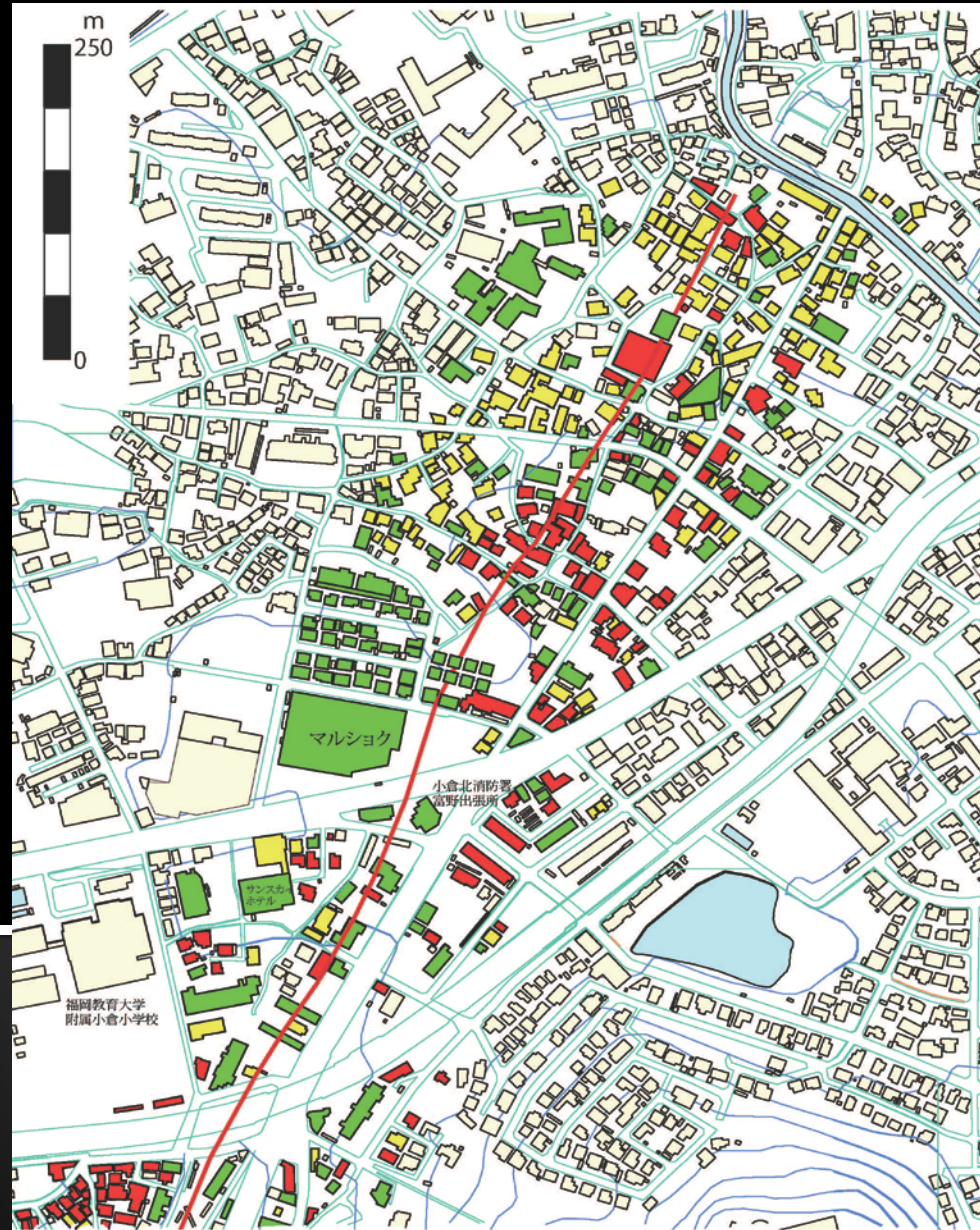
明治学園が目指したカリキュラム開発のエッセンスを融合



探究プロセス(2年プラン)
事前学習(高1)
↓
現地調査(高1)
↓
学会発表(高1)
↓
地域課題の発見(高2)
↓
**解決のための
実践(高2)**



研究：新しいタイプのハザードマップの作成



小倉東断層に沿う地域の建築物の建築年および主構造に基づくハザードマップ（上富野地区）

高校生ハザードマップ作成

明治学園高校（台細区）の生徒たちが、北九州市を南北に通る活断層（小倉東断層）（約13km）を歩いて調査し、ハザードマップを作成した。調査では、避難所として指定されている小学校が活断層の真上にあるケースも判明。防災・減災に向けた啓発活動が続いている。

同校は文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校で、2017年8月に小倉東断層を中心に左右幅200mの地域を自視でチェック。さらに同12月、小倉東断層の左右幅約200mを改めてチェックした。

明治学園「小倉東断層」歩いて調査



ハザードマップの前に立つ中心メンバーの高校生たち

左右幅200mの家屋2600棟

調査には約30人の生徒が参加。チェックした家屋は約2600棟。層周辺の建物を色分け

倒壊危険度 3段階に分け

倒壊危険度 3段階に分け

調査には約30人の生徒が参加。チェックした家屋は約2600棟。層周辺の建物を色分け

して、ハザードマップを完成させた。その結果、旧耐震基準で建てられたとみられる建物の耐震化が進んでいない▽全体的に築年数の古い木造建築物が多い▽活断層付近に公共施設が多い——ことなどが判明。また、活断層上に1小学校1駅があり、活断層から左右幅200mのものも含めると更に多くの公共建築物があることも分かった。

生徒たちを指導した佐藤高行教諭は「調査だけでなく、啓発活動を行行政と共に進めたり、行政との共催事業をしたりしていきたい」と話している。

【山本泰久】

2019.4.4毎日新聞

指導教員（内部人材の活用）
 教員A 耐震工学が専門
 教員B 活断層地形が専門

各種発表会への参加



高校生サミット
日本活断層学会
日本地理学会 などなど



学会参加をモチベーションに研究活動に取り組む

生徒が考えたこと

学会・発表会で、自分たちの研究成果を伝えるだけで
よいのだろうか・・・。

北九州市の社会的な課題の解決を目指したい！

防災・減災意識を高めるため

啓発活動の **実践**

様々な出会い

北九州市危機管理監・危機管理室

北九州市教育長・教育委員会

WASEND(早大防災教育支援会)

NPO法人 好きっちゃ北九州

里山を考える会

SAY!輪

公立高校の先生方

熊本地震の被災者の方々

小学校での防災意識啓発授業



小学校での防災意識啓発授業



NHK北九州 2019.3.11の
夕方のニュースで放映

児童に「防災・減災を」

明治学園高生9人が特別授業

文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されている明治学園高（戸畑区）の1、2年生9人が井堀小学校（小倉北区）の4年生34人を対象に防災・減災の特別授業をした。

授業は「みんなで考えよう！防災・減災」がテーマ。児童たちは、東日本大震災での津波の高さや被害者数などの説明を受けた後、3班に分かれて①非常用持ち出し袋に入れるもの②災害に備えて寝る前に準備しておくもの③避難所で情報を早く正確に伝えることをゲーム形式で学んだ。

東日本大震災発生時間に合わせて全員で黙とうもした。



非常用持ち出し袋に何を入れるかを高校生たち（左端の2人）から教わる児童たち

授業後、井堀小の吉里航輝さん（10）は「学んだことを、今後もしかしていききたい。明治学園高1年の松崎こささん（16）は「活動が続けたい」と話した。【山本泰久】

支える

出かけた大きいと呼び掛けた。今年から小倉商業高（小倉南区）、小倉南高（同区）、若松商業高（若松区）の生徒が関連イベントの企画や運営に参加。募金を呼び掛けたほか、会場近くの勝山橋にブースを設置し、自分たちで仕入れた福島県産のコメなどを販売した。売り上げは被災地に贈る。小倉商業高2年の長森ゆりあさん（17）は「少しでも助けになれば、被災地の人たちの笑顔を想像しながら販売しました」と話した。

防災・減災題材に授業

小倉北区の井堀小では、4年生児童34人が、明治学園高（戸畑区）の生徒9人から防災・減災をテーマにした授業を受けた。東日本大震災の被害や、災害発生時の対応などを学んだ。

児童は写真で、津波で大きな被害を受けた被災地の様子を学んだ。その後、夜中に地震が起きたことを想定し、玩具のレゴブロックを散らかした床の上を目隠ししてはだして歩き、災害現場を疑似体験。非常用持ち出し袋の中に、入れるべきものを並べるクイズにも挑戦した。東日本大震災が発生した午後2時46分、全員で黙とうをささげた。

明治学園高生、井堀小で

災害現場の疑似体験も

授業は、明治学園高の課題学習の一環として実施。2年の島耕平さん（17）は「いつ起こるか分からない災害に備える大切さを、多くの子どもたちに共有してほしいと話した。」

小学校での啓発授業



①被災地の特産品を販売する小倉商業高の生徒たち②非常用持ち出し袋の中身を当てるゲームをする明治学園高の生徒と井堀小の児童たち③東日本大震災が発生した午後2時46分、黙とうをささげる井堀小の児童たち

2019.3.12
新聞に掲載

高校生が企画・運営した 「高校生地震防災シンポジウム」開催(2018.9.1)



後援
北九州市
日本活断層学会

この様子は熊本県民テレビの
夕方のニュースで放映

「第2回高校生地震防災シンポジウム」 (2019.6.15)



つた。
生徒を交えたパネルディスカッションも開催。同
園高3年の山下日和さん(18)は「防災に関する行事
に参加し、家族や友人に話
すことで、防災意識を少し
ずつ広げていくべきだ」と
主張。倉本さんは「語り手
が少なく、記憶の風化が懸
念される」と訴え、「大変
な状況が続く益城を気にか
けて忘れないでほしい」と
呼びかけた。

読売新聞
2019.6.16

防災意識啓発プラン(益城町巡検)

熊本地震の被災地である益城町の現在を知る！
(三助を学ぶ体験ツアー)

自助 被災体験講話
活断層地形見学

共助 スタディツアー
仮設住宅見学
炊き出し体験

公助 町の取り組み

2019年3月17日 実施



防災意識啓発プラン(益城町巡検)

共助 スタディツアー
仮設住宅見学
炊き出し体験



3つの高校の生徒40名が参加



防災意識啓発プラン(益城町巡検)

この様子はKKT・FBSの
夕方のニュースで放映

明治学園「自然災害と防災・減災」チーム

今後の予定(2019年8月6日 実施予定)

第2回 防災意識啓発プラン(益城町巡検)

**熊本地震の被災地である益城町の現在を知る！
(三助を学ぶ体験ツアー)**

誘う予定の学校

県立小倉高校・県立戸畑高校・県立八幡南高校

県立小倉南高校・県立北九州高校

北九州市立高校

など

SGH指定校だからこそ 明治学園がモデルケースにならないければ・・・。

北九州市内の高校生が

交流できる機会を設定し、

協働を通して防災意識向上を目指す

現在の目標

北九州市の 地域防災力・防災意識向上への貢献

防災への取り組み＝地域づくり

**明治学園の校是 「人々のための人」
→北九州市にある学校としての責任**

防災・減災への取り組み

SDGs未来都市
北九州市とともに

SDGs

Goal 4

Goal 11

Goal 17

4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



に向けて取り組んでいます。

**最終発表でお疲れのところ
ご清聴頂きありがとうございました。**